

## 第1回 都市自治体におけるスポーツを活用した地域振興に関する研究会 議事概要

日 時：2024年5月28日（火） 18：00～20：00

場 所：都市センター会館7階 704会議室（オンライン併用）

出席者：真山達志 座長（同志社大学 教授）、成瀬和弥 委員（筑波大学 助教）、向山昌利 委員（中央大学 准教授）、黒崎泰広 委員（宇都宮市 スポーツ都市推進課 課長）、松野英男 委員（浜松市 スポーツ振興課 課長）

米田研究室長、加藤主任研究員、高野研究員、中山研究員、石垣研究員、西川研究員（日本都市センター）

議 事：○座長委員及び事務局の紹介

○調査研究に関する議論について

○アンケート調査について

○その他

### 1. 調査研究に関する議論について

#### ○本研究会の論点について

- ・ eスポーツについて、従来のスポーツに含めるかというそもそもの議論はあるものの、昨今の状況を鑑みると本研究会の論点として避けては通れないのではないかと。また、多くの自治体ではどの所管が担当するかで議論になっていると想像できる。自治体としての向き合い方も含めて本研究会の論点の一つとして置くのは有意義。
- ・ 事務局案では「するスポーツ」に関する論点に偏っていると感じる。「する」「みる」「ささえる」といったスポーツに対する多様な関わり方について論点に加えてもいいのではないかと。
- ・ 昨今の自治体のスポーツ行政の大きな課題になっている部活動地域移行に関する論点も欠かせないのではないかと。ハード・ソフトの両面から検討する必要がある。
- ・ 自治体が事業を実施する上で評価の視点は欠かせない。こういった視点で何を評価すべきか、評価に必要なデータも含め整理する必要がある。
- ・ 事務局案にある「スポーツの環境整備や投資のあり方」といったことが自治体にとって大きなテーマになっている。既存の施設の統廃合を含め、適切なストックマネジメントについての議論は重要である。
- ・ 持続可能性を考えると、資金調達・確保の視点は重要である。
- ・ 競技力向上など、地域（自治体）がスポーツに貢献するという視点も重要である。
- ・ 異分野連携する際の接着剤としてスポーツを活用することは非常に期待できる。
- ・ 公民連携についてハード・ソフトの両面から考える必要がある。

## ○本研究会における「地域振興」の定義について

- ・ 「地域」については、個別の自治体を想定している。地域住民のつながりは「コミュニティ」として整理したい。
- ・ 「振興」について、基本となるのは経済面。地域内の消費増も非常に重要であるが、一過性のもので終わってしまう可能性もある。最終的な着地点として、地域の安定的な雇用の場の確保まで触れられると理想的である。加えて、経済面の振興が地域社会基盤の構築やコミュニティのソーシャルキャピタルを高めていく側面もある。
- ・ 健康福祉の分野については、政策の領域が明確に分かれていると感じる。異分野連携の軸としてスポーツを考える際の要素の一つとして取り入れていきたい。
- ・ 貧困や社会的包摂についても要素として取り入れてもよいのでは。

## 2. アンケート調査について

- ・ 自治体の企画担当課に対し、総合計画の中でスポーツを活用した地域振興がどのように位置づけられているかを確認められると面白い。関連して個別計画やビジョンの策定有無についても聞いてもよいのでは。
- ・ スポーツを活用した地域振興に関する取組みについて、スポーツ担当課に対しても現状と課題等について聞いてみたい。

## 3. その他

- ・ 第2回研究会は7月3日（水）に開催予定。